【事 業 報 告 書】

HKFA審判委員会　女子部

全　国　研　修　報　告

5R
～一歩一歩着実に～

■ 大　会　名　：　高円宮杯妃杯JFA第28回全日本U-15女子サッカー選手権大会
■ 場　　所　：　栃木県　栃木グリーンスタジアム
■ 日　に　ち　：　2023年12月9日（土）・10日（日）
■ 参　加　者　：　土屋　　花（２級審判員）
■ 研修内容
・12/5
ZOOMによる事前研修会
講師：浅井昭子氏、西野照美氏
・12/9・10
担当試合の振り返り

12/9　FCみやぎ(東北地区)　ー　北陸大学フィオリーレ(北信越地区)　主審

アセッサー：藤ケ崎敦氏

【振り返り】

審判団の打ち合わせの時点でタッチジャッジについて丁寧に行いたいとの旨を伝えていたため、スムーズに進行することが出来ていた。4th付近でのタッチジャッジの際、主審からもA1からも見づらい位置で起きた際、4thが関与しシークレットシグナルを出したおかげでその後の試合の進行を止めずに進めることができた。

後半25分のタイミングでペナルティエリア内でのファウルの事象の際、結果的に笛を吹きPKにしたがタイミングが少し遅い印象があった。明らかなトリップが起きたことは間違いなくPKの判断としては適切であるが、ペナルティエリア内というアドバンテージがほぼない場所ではすぐにファウルの笛を使ったほうが良い。

試合全体としては、事象に近づき近くで見ようとする意思は伝わったが、動き出しのタイミングについて予測を踏まえて行う事でワンテンポのズレを軽減できるとのアドバイスをいただいた。

12/10　北陸大学フィオリーレ(北信越地区)　ー　神村学園中等部女子サッカー部(九州地区)　主審

アセッサー：浅井昭子氏

【振り返り】

試合の展開ごとに体全体の向きを変え、しっかりと見ようとしていることがよく映っていた印象があった。前半30分は選手とともに予測を立てた動きをよくしていたが、後半にかけてボールに巻き込まれるような危うい状況に何度かなっていたのが見受けられた。また余計なシグナルが何度かあり、特にファウルの際は主審自身がクイックを抑制させてしまっていたのである程度のシグナルで十分であるとのアドバイスをいただいた。

後半に2度、ゴールエリア内でボールを絡め選手同士が一箇所に集中する場面が起きた際、主審からもアシスタントからも状況が把握できない場面が見受けられた。そうした際には一番危険な状況であるキーパーの安全を最優先にした判断を笛などを用いて行わなければいけない。

研修を通して

今回の大会は自身の今まで経験したきたことを最大限に活かしてのレフェリングが求められるような試合でした。何が起きるのかを予測しながらポジションを作っていかなければならないことが多く求められたのではないかと感じます。その中で今回の大会を通して意識してテーマにしていた「距離感」についてはINSの方々にもあげて頂いたことは自身にとって大きな収穫であったと感じます。

全国各地から様々な審判の方と初めてではありましたが、そうした中で自分がどう試合を進めていきたいか伝えることはとても大事なことだと改めて気づくことができました。また多くの仲間にも出会うことができたのはとても嬉しいことでした。

最後に今回全国大会というとても大きな試合に審判員として参加させていただきありがとうございます。全国という大きな地で審判ができたことはこれからの審判活動に大きなプラスになっていくと感じることができました。この経験を今後に繋げていけるよう日々のトレーニングを初め、私生活の場面でも活かしていきたいと思います。常に周りの方々への感謝を忘れず、努力していきます。

■ 大　会　名　：　JFA 第47回全日本U-12サッカー選手権大会
■ 場　　所　：　鹿児島県鹿児島ふれあいスポーツランド、鹿児島県立サッカー・ラグビー場
■ 日　に　ち　：　2023年12月25日（月）～28日（木）
■ 参　加　者　：　猪俣陽茉梨（空知地区ユース３級審判員）
■ 研修内容

・事前研修　11/15・29, 12/18
ZOOM　大会要項の確認・大会参加に向けて
・夜の研修　12/25～27
JFAの理念、1日に出たカードの種類別の枚数など

12/26　ヴェルフェ矢板U-12(栃木)　ー　V・ファーレン長崎U-12(長崎)　補助審判

アセッサー：石田明氏、田渕量也氏

【振り返り】

負傷者が出た時の対応をあまり出来ていなかった。アディショナルタイムを出した後の後ろへ下がる際にコートへ背を向けないなどの課題が出た。今後はこれらを意識していく。

12/26　太陽SC U-12(鹿児島)　ー　スフォンダーレSS(奈良)　主審

アセッサー：石田明氏、田渕量也氏

【振り返り】

全体的に中央に寄って見ていることが多く、あまり近くによって見ていることが少なかった。ファウルがしっかり見えない角度から見てしまっていて、もっとよく見える位置へ動けるようにすると良くなると思った。また、負傷者が出た際の対応をすぐにすることで選手のプレー時間をより増やしてあげることが出来る。試合の再開方法を間違えないように補助審と試合前にもし間違えていた時の伝え方などを細かく確認をしておくことなどを大切にする。コミュニケーションが足りず、怪我をした選手への声掛けやファウルじゃないよなどと言えていたらもう少し上手く試合をコントロールすることが出来ていたのかなと思った。

12/27　アイリスFC住吉(大阪)　ー　津田FC(三重)　主審

アセッサー：石田明氏、村上孝治氏

【振り返り】

前日の試合の反省と同じように中央寄りになっていたり、笛を口元まで持っていくが吹けていないことが多かったが、前日よりも遅れてはいるがペナルティーエリアへ近づける回数が増えていた。攻守の切り替えの際に置いてかれてしまうことが多く、もっと予測して動いていたら少しは置いていかれることが少なかったと思う。負傷者、特に頭の対応はドロップボールで再開出来るからすぐにでも止めてあげたほうがいいと教えて頂いたので次は気をつけていきたい。後半に起きたPKをトリッピングとして取ったが笛をしっかり吹くことが出来ず、シグナルも曖昧になってしまったのでしっかりしていきたい。また、PKの際の立ち位置が逆だったことやペナルティーエリアに入ってる選手がいないか、ゴールキーパーの立ち位置、キッカーのキックフェイントなどの見なければいけないことがしっかりと見ていなかった所があったので改善したい。

※この他にも主審３試合・補助審判２試合

研修を通して

この度は北海道サッカー協会より、鹿児島県鹿児島ふれあいスポーツランド、鹿児島県立サッカー・ラグビー場にて行われた JFA 第47回 全日本U-12サッカー選手権大会に派遣していただき、誠にありがとうございました。また、他地域の審判員、インストラクターの皆様と交流させていただき、学びがありとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。この経験を来シーズンへも活かすことが出来るよう、今後も知識を広げていけるように精進していきたいと思います。